資 料

育児期にある夫婦関係の自覚と夫婦ペアレンティングへの思い

Thoughts of spouses toward parenting together and consciousness of their marital relationship in the child-rearing stage

清水 嘉子 (Yoshiko SHIMIZU)*

抄 録

目 的

育児期にある夫婦関係の自覚と実際のなかかわりの協働やその調整である夫婦ペアレンティングへの思いを明らかにすることを目的に7組のカップル14名を対象として取り組んだ。

研究方法

家庭訪問による半構造化面接を夫婦別々に行い、夫と妻の語りを質的に分析し、コードから、サブカテゴリー、カテゴリーを抽出した。

結 果

対象とした夫婦は、A県に在住しており、妻は平均38.9歳、夫は41.1歳であり、結婚して平均8.7年が経過していた。妻は、＜子育ての中で感じる気持ちを大切にできる＞＜成長している夫を感じる＞などから【自分の子育てを支えているものがある】、＜子どもとのかかわりは間違っていない＞＜自分のおかれた環境を自覚している＞から【子どもへのかかわりへの思い】をもって＜夫へのささやかな不満がある＞＜夫とのコミュニケーションへの意識がある＞から【夫に対する客観的な分析】をしながら、＜夫とうまくいっている実感がある＞＜夫への感謝の気持ちがある＞＜夫への理解と信頼がある＞により【夫との協力関係への満足感】をもっていた。一方、夫は＜夫婦の協力に対するスタンスがある＞＜子どもに向き合っている＞により【自分なりの妻や子どもへの考えがある】をもち、＜妻との折り合いをつけている＞＜妻と助け合うことはあたりまえ＞などから【妻と助け合って子育てをするための努力】をしながら＜妻への信頼と感謝がある＞＜妻との関係に満足している＞により【妻との協力関係への満足感】をもっていた。

結 論

夫婦は互いの信頼関係や感謝の心、支え合いの中で、二人の関係への満足感をもっていた。妻を支えたいという夫の思いと、子どものために、妻に支えられている実感の中で、二人の関係は保たれ調整されていた。こうした夫婦関係を基盤にして、良好な夫婦ペアレンティングへの思いが保たれていた。

キーワード：育児期、夫婦ペアレンティング、夫婦関係、語り

* 名古屋学芸大学 (Nagoya University of Arts and Sciences)

2020年8月26日受付 2021年3月7日採用 2021年9月17日早期公開

Abstract

Objective

We studied 14 people comprising 7 couples with the aim of clarifying spouses' consciousness of their marital relationship in the child-rearing stage and their thoughts on parenting together, which involves the interplay between their cooperative relationships and adjustments to these.

Methods

We conducted semi-structured interviews with husbands and wives separately during home visits, qualitatively analyzed their narratives, and extracted subcategories and categories from codes.

Results

The participating couples lived in A Prefecture. Mean ages of the wives and husbands were 38.9 and 41.1 years, respectively, and they had been married for a mean of 8.7 years. Wives held that [there is something supporting my child-rearing] from responses such as “I can appreciate the feelings I have during child-rearing” and “I feel my husband growing.” They also had [thoughts on my involvement with my child] from responses such as “my involvement with my child is not wrong” and “I am conscious of the environment in which I am.” While some conducted an [objective analysis of my husband] from responses such as “I am conscious of my communication with my husband,” and “I have some minor complaints about my husband,” some had [a sense of satisfaction toward the partnership with my husband] according to responses such as “I feel as if things are going well with my husband,” “I have a sense of gratitude toward my husband,” and “I have trust and understanding toward my husband.” In contrast, husbands held that [I have my own ideas regarding my wife and child] according to responses such as “I have a stance on cooperation between spouses” and “I face my child.” While some made [efforts to help my wife in child-rearing] according to responses such as “I make compromises with my wife,” and “It's natural for my wife and I to help each other,” some had [a sense of satisfaction toward the partnership with my wife] according to responses such as “I have trust and gratitude toward my wife” and “I am satisfied with the relationship with my wife.”

Conclusion

Married couples who supported one another and had feelings of gratitude and a mutually trusting relationship also had a sense of satisfaction toward their relationship with one another. Relationships between husband and wife were maintained and adjusted through thoughts of husbands who indicated they wanted to support their wives and who in reality were also supported by their wives for the purposes of child-rearing. These marital relationships maintained favorable thoughts on parenting together.

Key words: child-rearing stage, parenting together, marital relationship, narratives

1. 緒 言

我が国は晩婚化と非婚化が進み、結婚後5年以内の離婚率が高いと報告されている(厚生労働省, 2016)。結婚して5年以内の離婚が多いことについては、育児期にある産後クライシスの問題として着目されており、育児期の夫婦ペアレンティングを支援することは意義があると考えられる。夫婦ペアレンティングは、両親が親としての役割をどのように一緒に行うかということ(Feinberg, 2003)とされ、広義では、「その子どもの世話と養育に責任を負うべき複数の養育者が共有する行為」(McHale, 1997; McHale, et al. 1998)とされている。出産後の夫婦関係では、夫婦の関係が悪化したケースは50%, 変化のなかったケースは30%, 向上したケースは20%となり、配偶者への愛情は半分のケースが30%減少し、心理的な葛藤や摩擦が増えている。加えて、

夫婦のコミュニケーションも減少している(Belesky, et al. 1995)。同様に、夫婦の向き合いが産後減少し、母子の向き合いが有意に増加していた(佐々木他, 2007)。育児期をより良い体験にするために、結婚、妊娠、出産、育児に向き合うカップルに、夫婦ペアレンティングを実践するための留意点など有意義な示唆を示すことができると考える。子育ての多くの研究は乳幼児期に集中しており、子どもの成長発達に伴い子どもへの関りの質が変化する中で、妊娠、出産をどう過ごすのかは、産後の子育てにおける親としての在り方に影響すると考えられるが、我が国では、その支援の多くが母親となっている。

母親の心身の縦断研究(清水, 2017)では、母親の育児の自信には父親に相談できることが影響していた。どのように夫婦として共に子育てにあたっているのかという夫婦ペアレンティングの調整の実態とその

プロセスの解明の取り組みは少ない中で(加藤他, 2012/加藤他, 2014), 子育てを良好な夫婦ペアレンティングの調整の中で行うことは, 育児を次の親世代に引き継ぐことができると考える。

そこで, 夫婦ペアレンティングの研究をスタートさせ, 妻と夫がお互いの子育ての批判をどのように受け止め, その背景に何があると考えているのかアンケート調査の記述から質的に分析した。この結果より, 妻は批判されたことに対する受け止めはネガティブなものが見られ, 夫婦関係の歪みとして認識していた。一方, 夫は客観的に受け止め, それはそれとして聞いているものの, 自分の考えで行っているところが見られ, 妻は夫である自分や, 育児・家事に対する不満があると受け止めており, 妻と夫の夫婦ペアレンティングの違いが明らかになった(清水, 2020a)。さらに, 夫婦ペアレンティングにおける促進行動, 批判行動として, 夫が子育てにかかわることに対して妻が尊重, 支持, 激励する行動を促進行動とし, 夫が子どもに関わることに妻が拒否, 避難, 批判する行動を批判行動とした上で促進行動と批判行動の夫婦ペアレンティングの様相と関連要因を明らかにすることを目的とした研究に取り組んだ。促進行動と批判行動の4パターン(促進高批判低, 促進高批判高, 促進低批判低, 促進低批判高)による量的な分析を行った。夫婦のペアレンティング調整の様相では4パターンの割合がほぼ同じ割合にみられ, 特に促進高-批判低パターンの妻が, 心理的に良い状態を示していることが明らかになった。このパターンでは夫への感謝が高く, 夫の支援のなさが低かった。さらに, 育児不安が低く, 話し合いをよく行い, 話し合いに対して納得していた(清水, 2020b)。

子育て期にある夫婦ペアレンティングの研究では, 母親による父親関与への抑制要因, すなわち父親に子どもを任せられない状態(gatekeeping)だけではなく, 促進要因の存在が指摘されている(加藤他, 2012)。妻の促進行動や批判行動の背景にある思いやその思いに関係していると考えられる夫婦関係の自覚を明らかにするために, 今回7組14名のカップルに聞き取りを行ったのでここに報告する。

II. 研究方法

1. 調査期間

2019年5月～7月

2. 調査方法

2018年7月に行われたA県内の3歳から4歳の子どもをもつ母親と父親を対象に保育園, 幼稚園, 子育て支援センターを通じて行ったアンケート調査において, 訪問による聞き取り調査への協力の意志を確認するため, 調査用紙の返送時に協力の意志のある方に連絡先(住所)の明記を依頼した。後日, その連絡先に調査の趣旨や方法について明記した資料を郵送し, 返送により協力の意思と連絡先(電話)の明記を依頼した。その後, 電話またはSNSで連絡を取り, 訪問の具体的な日時や場所の調整をし, 家庭訪問による半構造化面接を夫と妻と別に行った。相手の語りたい事柄を丁寧に聞き取った。面接対象者への許可を得てテープによる録音を行った。

3. 調査対象

A県内に在住する, 3歳から4歳の子どもをもつ夫婦で協力の意志のある7組14名を分析の対象とした。この時期の子どもを持つ親は, 子どものイヤイヤ期や子どもとのコミュニケーションの難しさを抱えながら, 子どもの成長を実感する時期にある。そして, ここまでの子育てに夫婦がどう過ごしてきたのか, 夫婦関係の自覚や夫婦ペアレンティングへの思いに着目した。

4. 調査内容

聞き取りの内容は, 夫婦関係の自覚として, 相手に対する気持ちと変化, 夫婦関係への満足, 夫婦ペアレンティングへの思いとして, 子育ての協力への考えとその根底にある思い, 協力の実態と満足, 協力を良好なものにするための行動や言葉がけとその背景にあるもの, 子育ての協力をするうえで大切なこと, 子育ての協力で阻害するもの, 子どもが増えたときの協力の变化などであった。

5. 分析方法

半構造化面接で聞き取った語りを文字にし, 文字化した記述内容を繰り返し読み込んでその状況を解釈した。記述内容から, 研究目的に関係すると考えられる夫婦関係の自覚と夫婦ペアレンティングへの思いの語りに, コード名をつけコーディングした。次に, カテゴリー化と概念化(第2・第3段階の抽象化)の段階に進み, 内容の似た者同士を並べて, まとまりをつくり, サブカテゴリー化した。さらにサブカテゴリーを総括する

名前をつけカテゴリを命名した。分析の全過程において、常に帰納的に検討し、コードとサブカテゴリ、サブカテゴリとカテゴリに矛盾がないことを確認しながら遂行した。分析の妥当性を保つため、研究者の分析後、質的研究に精通する母性看護学教員1名に確認を依頼し、両者が一致したものを採用した。変更が必要なものは意見が一致するまで検討を行った。

6. 倫理的配慮

調査の依頼文には、自由意思による協力であること、聞き取りを行った後は個人が特定されないよう記号化して処理し、データを研究結果公表後破棄することを明記した。倫理審査は名古屋学芸大学の倫理委員会の審査を受け2018年に承認(#274)を得た後に研究を開始した。

Ⅲ. 結 果

1. 対象となった夫婦の属性

対象となった夫婦は、A県に在住し、妻平均38.9歳、夫41.1歳であり、結婚後平均8.7年であった。14名の面接時間は46.9分±9.0(妻46.1分、夫47.6分)であった。子どもは、2.3人であり、妻は専業主婦4名、パートタイム1名、育休中1名、フルタイム1名であった。夫は全員フルタイムであった。核家族が6組、二世帯家族は1組であった(表1)。

7組14名の夫婦関係や夫婦ペアレンティングについて、妻と夫それぞれに‘ ’はコード、< >はサブカ

テゴリ、【 】はカテゴリとして記述した。事例は夫A-G、妻a-gと明記した。

2. 妻の夫婦関係の自覚と夫婦ペアレンティングへの思い

夫婦ペアレンティングへの思いとして‘苦しかった自分が娘と分かり合えたことで楽になったc’‘お店をしているので子どもには寂しい思いもあるかもしれないf’などから<子育ての中で感じる気持ちを大切にできる>ことがあった。また、‘夫に育児に協力してもらうために自分なりに誘導しているb’‘子どもの勉強をよく見ているので自分が主導権をもっているd’などから<夫婦関係に裏打ちされたコントロール力がある>があった。さらに、‘夫を頼りにして尊敬しているe’‘潔癖主義でせっかちな自分に対して夫はそのことをわかって対応してくれているg’などにより<支えてくれる夫の存在がある>ことを感じながら、‘夫は少しずつ言わなくてもやれるようになってきているd’‘夫に自分が育てられていることを感じているb’‘下の子ができてさらに協力的になったf’などにより<成長している夫を感じる>ことがあった。また、‘ママ友は頼りになる存在a’‘一人目は大変だけど大きくなると助けてくれるようになったd’などから<夫の家族やママ友・子どもの支えがある>ことを感じながら、【自分の子育てを支えているものがある】という気持ちがあった。さらに、‘上の子の育ちを見て今の子育てでいいんだと思えるb’‘子育てで大切にしていることは自然に触れることd’などにより<子どもとのかか

表1 対象者の属性

夫婦		インタビュー 時間 (分)	年齢 (歳)	結婚 年数 (年)	子どもの数 (人)	子どもの 年齢 (歳)			家族 構成	職業/就業形態	
夫婦 1	妻a	45	34	9	3	7	5	0	核家族	専業主婦	
	夫A	40	35							会社員	フルタイム
夫婦 2	妻b	30	43	7	2	5	0		核家族	会社員	育休中
	夫B	46	45							会社員	フルタイム
夫婦 3	妻c	65	45	14	3	11	9	5	核家族	自営業	パートタイム
	夫C	52	45								フルタイム
夫婦 4	妻d	38	39	10	3	8	4	1	核家族	専業主婦	
	夫D	49	38							会社員	フルタイム
夫婦 5	妻e	44	37	6	1	4			核家族	専業主婦	
	夫E	44	45							会社員	フルタイム
夫婦 6	妻f	60	35	8	2	4	0		2世帯	自営業	フルタイム
	夫F	48	36								フルタイム
夫婦 7	妻g	41	39	7	2	5	2		核家族	専業主婦	
	夫G	54	44							自営業	フルタイム

わりは間違っていない>と信じていた。‘この先何があるか分からないからお互いの子育ての価値観に折り合いをつけているb’‘両親のことは夫もつらいはずc’などから<自分のおかれた環境を自覚している>ことも加わり、【子どもへのかかわりへの思い】があった。そして、‘父親にしかできない子育てをもっとしてほしいb’‘自分の子育てを否定されている感じc’などにより<夫へのささやかな不満がある>を抱いていた。一方で、‘夫の帰りが遅いことは気になっているが嫌がりそうなことは言わないa’‘余裕ができたなら喧嘩もしなくなりこんなもんだと思えるようになったg’などにより<夫とのコミュニケーションへの意識がある>と意識することで、【夫に対する客観的な分析】をしていた。その上で、‘夫は子どもとうまくやっているので心配ないa’‘お互いに思いやっていることを自覚しているf’などにより<夫とうまくいっている実感がある>があった。そして、‘言わなくても子どもを見てくれている夫に感謝の言葉を伝えているe’‘自分や子どもに献身的に尽くしてくれる夫に感謝しているg’などにより<夫への感謝の気持ちがある>と感謝の思いを抱いていた。さらに、‘夫と子育てに対する考えが一致しているのでイライラした気持ちを話すことができるe’‘自分の親に対する気遣いがあるf’などにより<夫への理解と信頼がある>と感じながら、【夫との協力関係への満足感】を抱いていた。

妻は、夫婦ペアレンティングへの思いとして【自分の子育てを支えているものがある】により【子どもへのかかわりへの思い】をもって【夫に対する客観的な分析】をしながら、【夫との協力関係への満足感】による夫婦関係の自覚があった(表2)。

3. 夫の夫婦関係の自覚と夫婦ペアレンティングへの思い

夫婦ペアレンティングへの思いとして‘子育てを分担する考え方は良くないA’‘親の影響を受けている自分がいるC’などにより<夫婦の協力に対するスタンスがある>と自分なりの立ち位置を認識していた。さらに、‘子どもの責任は両親C’‘勉強ばかりではだめ息抜きを子どもにはさせたいD’などにより<子どもに向き合っている>と感じながら【自分なりの妻や子どもへの考えがある】と認識していた。そして、‘子どもが増えて良かったF’‘二人で出かけなくなり子ども中心の生活になっているG’などにより<子育てを通した変化への気づきがある>ことで、‘子育ての考え

に違いはあるが落ち着いて興奮せずに妻に接していくC’‘手伝いたい気持ちと休みたい気持ちのバランスをとっているD’などにより、<妻との折り合いをつけている>と妻との関係を保つための調整をしていた。

その上で、‘子どもがいるんだから違いを認め合わなければならないC’‘自分の子どもだから自分も手伝うF’などにより、<妻と助け合うことはあたりまえ>と考えていた。加えて、‘妻の頑張りには答えたい気持ちがあるB’‘子どもが増えて妻の大変な姿を見て手伝いたいD’などの思いにより<妻の気持ちがわかるから応えたい>という気持ちがあった。そして‘妻を立てているが偉そうにしないB’‘妻は認められていない思いがあるので言い過ぎないようにしているC’などにより、<妻を支えながらうまくやっていたい>と考えながら、【妻と助け合って子育てをするための努力】をしていた。

さらに、夫婦関係への自覚として、‘余裕がなくなると子どもにあたる妻がかばってくれるF’‘家事も育児もちゃんとしており不満はなくありがたいという気持ちをもっているG’などの思いから<妻への信頼と感謝がある>を抱いていた。そしてさらに、‘妻を頼りにしている自分がいるA’‘妻には特に求めることはないF’などの思いから<妻との関係に満足している>と感じており、【妻との協力関係への満足感】を抱いていた。夫は夫婦ペアレンティングへの思いとして、【自分なりの妻や子どもへの考えがある】をもち、【妻と助け合って子育てをするための努力】をしながら、夫婦関係の自覚として、【妻との協力関係への満足感】があった(表3)。

IV. 考 察

1. 夫婦関係の自覚と夫婦ペアレンティングへの思い

夫婦ペアレンティングを良好に発揮するための夫婦関係は、妻の【夫との協力関係への満足感】と、夫の【妻との協力関係への満足感】により、夫婦の信頼関係が維持され、お互いへの感謝や夫婦関係への満足感による夫婦関係の自覚があった。そして、【自分の子育てを支えているものがある】こと、【子どもへのかかわりへの思い】【妻と助けあって子育てをするための努力】することによって、二人の子育てや今の子育てへの自信や支えられている実感により、夫婦の協力関係は保たれていた。また、<妻と支えあうことはあたりまえ>、<妻の気持ちがわかるから応えたい>、<妻を

表2 妻の夫婦関係の自覚と夫婦ペアレンティングへの思い

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
夫との協力関係への満足感	夫とうまくいっている実感がある	夫の育ちから夫の人柄がわかるa 言ったことに答えてくれる分夫はサポート者と思うa 夫は子どもとうまくやっているので心配ないa 日常生活でも夫の判断や意見に従うe お互いに思いやっていることを自覚しているf 思いやりや奉仕の気持ちをお互いに持っているからうまくやれているg
	夫への感謝の気持ちがある	好きで結婚した相手だし自分を大事にしてくれてありがたいd ありがとうはよく言うようにしているd 言わなくても子どもを見てくれる夫に感謝の言葉を伝えているe 自分や子どもに献身的に尽くしてくれる夫に感謝しているg
	夫への理解と信頼がある	夫の判断に対する信頼a 短い時間でも子どものことを相談し合っているb 夫と子育てに対する考えが一致しているのでイライラした気持ちを話すことができるe お互いに思いやりや愛情をもってその都度話し合っているe 夫に否定や批判をされることはないd 夫とは大事なことは話し合っているd 夫のことを尊敬し信頼しており大切にしていきたいb 夫の子どもへの接し方や教え方が勉強になるe 私に安全について注意するのは夫が子どものことを大事にしているからだe 自分の親に対する気遣いがあるf 子育ての価値観が一致しているf
自分の子育てを支えているものがある	子育ての中で感じる気持ちを大切にできる	子育てで感じるポジティブな気持ちを子どもにも伝えていきたいb 苦しかった自分が娘と分かり合えたことで楽になったc お店をしているので子どもには寂しい思いもあるかもしれないf
	夫婦関係に裏打ちされたコントロール力がある	夫を頼り立てているように思わせることで夫婦円満が保たれていると思うb 夫に育児に協力してもらうために自分なりに誘導しているb 子育てを楽しみたいから夫とはいい関係でいたいしそのために自分は努力しているb 夫に注意することもあるd 言いたいことはためずにその時に言うd 子どもの勉強をよく見ているので自分が主導権をもっているd
	支えてくれている夫の存在がある	夫に子どもへの接し方について相談することができその気にさせるアドバイスをもらえるb 夫は頼るに値する能力があるからつい頼ってしまう自分に対して戸惑いがあるb 細かいことにイラつくこともあるけど良くやってくれているd 夫を頼りにして尊敬しているe 潔癖主義でせっちな自分に対して夫はそのことをわかって対応してくれているg パニック障害をおこしたときに夫は文句を言わずに支えてくれたg
	成長している夫を感じる	夫は少しずつ言わなくてもやれるようになってきているd 夫に自分が育てられていることを感じているb 下の子ができてさらに協力的になったf 夫は仕事が好きでよく働き自分と出会ってからは話すようになり角がとれたg
	夫の家族やママ友・子どもの支えがある	ママ友は頼りになる存在a 夫は土日は休みたいようなので家のことは子どもたちをお願いしているa 働くか家にいるか好きにしたいと義母は言うa 一人目は大変だけど大きくなると助けてくれるようになったd
夫に対する客観的な分析	夫へのささやかな不満がある	逆に子どもの関わりで夫に注意することもあるa 父親にしかできない子育てをもっとしてほしいb 夫は家事や育児をよくやってくれているが口には出せない不満があるb 自分の子育てを否定されている感じc 謝るのは認めるがその場で謝ってほしいc 子育ての分担はできていたが気に入らないことがあるc 子どもが増えてくるともっとやってほしい気持ちが強くなるd 家事は自分の仕事だけれど本当はもう少しやってほしいd 物を買うときに子どもに過保護になってしまう夫に対してそれを抑えたい気持ちがあるe
	夫とのコミュニケーションへの意識がある	もっと夫に子どもの様子を伝えていきたいa 夫と話し合いはしないけれども日記の交換をしているa 子どもが増えて夫に言えるようになったa 夫の帰りが遅いことは気になっているが嫌がりそうなことは言わないa 余裕ができたなら喧嘩もしなくなりこんなもんだと思うようになったg
子どもへのかかわりへの思い	子どもとのかかわりは間違っていない	上の子の育ちを見て今の子育てでいいんだと思えるb 子育てで大切にしていることは自然に触れることd 子どもの気持ちを大切にしたいので親だけでは決めないd
	自分のおかれた環境を自覚している	「仕事も子育てもしっかりやらなきゃ」の思いから職場復帰への迷いがあるb 夫も私も育った環境から土地が広い方がいいと思うa この先何があるかわからないからお互いの子育ての価値観に折り合いをつけているb 両親のことは夫もつらいはずc お互いは理解しているが親に合わせているところがあるf お店をしているので違うところはあるけれど分担してやっているf

支えながらうまくやっていきたい＞など、他の人に支えられている感覚や自らが感じる幸福感を大切に

などの夫婦ペアレンティングへの思いがあった。

夫婦間における共感的なかかわりによって、夫婦、

表3 夫の夫婦関係の自覚と夫婦ペアレンティングへの思い

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
妻との協力関係への満足感	妻への信頼と感謝がある	妻は自分にはない子どもに良い影響を与えられる交友関係を持っているB 家族のために転職したが妻は気持ちを尊重してくれたD 妻に注意された時には素直に聞けるD 妻は教員免許を持っているので信頼しているD 夫婦間ではニックネームで呼びあっているF 結婚しても二人の関係は変わらないF 余裕がなくなると子どもにあたるが妻がかばってくれるF 家事も育児もちゃんとしており不満はなくありがたいという気持ちをもっているG
	妻との関係に満足している	妻は魅力的で一緒に居たいと思う存在B 好きで結婚したけれど対等でいられる今の方が好きD 我儘なところのある自分を妻は我慢してくれているD 妻を頼りにしている自分があるa-3 妻には特に求めることはないF 直感でこの人が自分の相手だと思ったF 妻との相性があるG
自分なりの妻や子どもへの考えがある	夫婦の協力に対するスタンスがある	子どもより妻を大事にするA 妻をほめてあげたいA 自分の子育てに対するスタンスは変わっていないA 子育てはあまり決めない方がよいA 育児方針もないA 子育てを分担する考え方は良くないA 親の影響を受けている自分があるC
	子どもに向き合っている	子どもへの関りをどうすれば良かったのかいつも考えているC 子どもの気持ち大切に思うC 子どもの責任は両親C 勉強ばかりではだめ息抜きを子どもにはさせたいD 自分で判断して行動できる人に育てたいF 子どもの気持ちを聞いたりスキンシップしながら大切なことは伝えたいG
妻と助け合って子育てをするための努力	子育てを通した変化への気づきがある	子どもが増えるに従って妻も自分も柔軟に対応できるようになったA 自分の好む生活スタイルがあるけれどこういうものだと思いついてるA 妻は一生懸命やっていると知っているがもっと経験から判断すべきだC 楽しいから妻とよく話をしているF 子どもが増えて良かったF 二人で出かけるなくなり子ども中心の生活になっているG
	妻との折り合いをつけている	子育ての考えに違いはあるが落ち着いて興奮せずに妻に接していくC 違いの訳は判らないがそんなもんだと受け入れるしかないC 家庭を経済的に支えるため体調とのバランスをとっているD 手伝いたい気持ちと休みたい気持ちのバランスをとっているD 育った環境から価値観の違いはあるが折り合いが大切D 経済面は自分が主導だけど子育ては妻に任せているD
	妻と助け合うことはあたりまえ	妻には子どもを置いて外で会合があるときをお願いされるA 自分からは妻に何かしようかとは言わないA 片親では子どもがかわいそうC 子どもがいるんだから違いを認め合わなければならないC 妻に上の子も見てって言われることもあるF 自分子どもだから自分も手伝うF 子育ては当たり前のことだから家事も育児もやれるほうがやればよいG
	妻の気持ちがわかるから応えたい	自分が怒るときは妻に申し訳なく思うA 妻の頑張りに答えたい気持ちがあるB 答えのないことが多い中で心と体のバランスが大切C 子どものことは何でも話し合い子どもを見ている妻の意見を尊重するD 折り合いの中で可能な限り妻を手伝いたいD 子どもが増えて妻の大変な姿を見て手伝いたいD 子どもの話はよく聞いてやりたいF
	妻を支えながらうまくやっていきたい	何かあったらいけないので子どもよりは遅く寝るA 妻と考え方に違いはあるがイライラする感じもなく不満もないB 妻を立てているが偉そうにしないB 妻は認められていない思いがあるので言い過ぎないようにしているC 夫婦が同じ方向を見ていることが大事F 妻との会話からいろんなことがわかるので会話を大事にしたいG 妻や子どものことが気になるので電話をするG

特に妻の関係満足度を高め、関係性を維持しているのではないかと(神谷, 2013)とされているように、夫婦が互いを理解し合うことは、互いの関係満足度に影響していることが本結果からも伺える。つまり、妻の【夫との協力関係への満足感】として<夫への感謝の気持ちがある><夫への理解や信頼がある><夫とうまくいっている実感がある>や、夫の【妻との協力関係への満足感】として<妻への信頼と感謝がある><妻との関係に満足している>に現れている。そして、互いに支え合い、育ち合っているという夫婦間

係の自覚は、妻の夫婦関係に裏打ちされたコントロール力や、夫の妻の気持ちに答えたい、助け合うことは当たり前などの考えや自分なりの柔軟さやバランス、うまくやりたい気持ちや、妻に支えられている子育ての実感による夫婦ペアレンティングへの思いにより、妻主導の中で夫がそれに対して柔軟に対応していることがわかる。妻から夫に伝えるスキルが高いほど夫からのサポートが受けやすいと述べており(佐藤, 2012)、本結果からも、「妻の夫を立てているように思わせることで・・・」のコードにあるように、妻は夫を

尊重する気持ちから夫を立てながら、一方で「夫に育児に協力してもらうために自分なりに誘導している」のコードからも、夫を自分の考える方向にコントロールしている妻の調整力が大きいことが分かる。それに加えて、夫の妻を立てる気持ちやうまくやりたい思いが夫婦ペアレンティングの根底にあると考えられた。

結婚生活の経過による夫婦満足度は、結婚年数が増えるに従ってハネムーン効果が薄れ低下している(永井, 2005)。そのため、未就学児がいるカップルで妻の夫婦関係満足度が低いことから家族役割に関する看護者や周囲のサポート者からの説明や支援が必要になる。3歳の子どもを持つ母親が抱く夫の協力が減ったと感じていると先行研究(清水, 2017)による量研究から明らかにされているが、今回の結果では、むしろ夫婦の信頼関係を育んでいる姿があることに加えて、子どもが大きくなるに従い、夫とのかかわりが変化していることに気付いていることが質的な聞き取りから明らかとなった。本研究から、そうした変化は、夫婦関係への満足感が根底にあることによって、夫婦ペアレンティングへの良い調整がなされていると考えられる。

妊娠期の夫婦関係意識に関する因子分析からも良好な人間関係や夫の支援・信頼、パートナーの受容の因子項目が抽出されており、夫婦関係を調整する上で大切な要素であることが示されている(伊藤, 2015)。本結果において<夫とうまくいっている実感><夫への感謝の気持ちがある><夫への理解と信頼がある>ことから、良好な人間関係や夫の支援・信頼、パートナーの受容に類似する結果が示されていた。また、子どもができ、第一子誕生後には、夫婦共通の目標への歩みの開始や、育児の大切さを理解し妻をサポートする役割の追加、そして夫婦関係のバランスを保つための工夫や再調整の実施、親になるお互いを受け入れようとする姿勢の出現、責任感の芽生えによる家族意識の向上など夫から見た夫婦の変化が報告されている(荒川他, 2012)。つまり、夫婦ペアレンティングでは、子どもが増え様々な困難を乗り越える中で、お互いが大切にしている思いや考えに支えられた互いの育ち合いや理解し合い、そして支え合いの姿と感謝の心によって、二人の関係への満足感が保たれていると考えられた。調査対象者の中には夫をコントロールしている妻の調整力が生まれ、夫もそのことを受け入れながらバランスをとっていた。母親による父親関与への抑制要因、すなわち父親に子どもを任せら

れない状態(gatekeeping)だけではなく、促進要因の存在が指摘されている(加藤他, 2012)。本研究においては、母親のgatekeepingに関する語りは見られず、むしろ促進要因としての「ありがたいはよく言うようにしているd」や「言わなくても子どもを見てくれている夫に感謝の言葉を伝えているe」などの感謝を言葉にしている行動や、「夫に育児に協力してもらうために自分なりに誘導しているb」などの、夫を子育てに引き込もうとする具体的な行動や、「夫を頼り立てているように思わせることで夫婦円満が保たれていると思うb」などの夫婦関係を保つための具体的な行動があった。

妻の【夫に対する客観的な分析】では、<夫へのささやかな不満がある><夫とのコミュニケーションへの意識がある>の自覚は、妻の中で夫との関係性をプラスの方向に向かわせるための自身の中に湧いてくる不満や気づきでもあった。夫婦関係がうまくいっているという自覚は、夫婦ペアレンティングに良い影響をもたらしており、このうまくいっている自覚がもてないことは、プラスの方向に向かえない、閉鎖的な関係性が起こりうる。つまり、結婚して5年以内の離婚が多い(厚生労働省, 2016)ことについては、育児期にある産後クライシスの問題として発展していくことが考えられる。

2. 夫婦ペアレンティングを良好なものとする支援

結婚生活におけるコミットメント志向性モデルによると、危機をきっかけに潜んでいた不満が表面化し、制度維持レベルの結婚生活を続けたいレベルに留まり、人生の主要な節目である子育て期に、これまでどのような関係性を築いていたのかが問われることになる(宇都宮, 2020)。夫婦関係の質において、夫婦関係満足度の高いケースには、互いに表出コミュニケーションが多く、夫への信頼が高く、役割としての関係よりも個人としての関係について信頼が高いことが示されている(田中, 2016)。本結果においても、まずは夫婦としての互いの信頼や感謝の気持ちに支えられた夫婦関係への満足感が示されている。

また、子育ては夫婦でシェアする、共同して養育する考え方が海外ではある中で、日本では性別役割分業の考えが根強くよくあることから、日本の夫婦にコペアレンティングがうまく機能しないと述べられているが(江崎グリコ, 2020)、今回の調査においては、性別役割分業というよりは、互いの信頼関係や感謝の心、

支え合い、理解し合い、育ち合いの中で、二人の関係への満足感をもっていた。妻を支えたいという夫の思いと、子どものために、妻に支えられている実感の中で、二人の関係は保たれ調整されていることが分かった。

子育て期の妻は、会話時間と自己開示が関係満足度を大きく規定しているが、夫は、自己開示は妻ほど関係満足度に規定されず、妻の夫への開示が夫の関係満足度を規定していた。つまり夫は、子育て期においては会話時間が関係満足を規定していた(伊藤他, 2007)。このことから、本結果から見えてきたことを夫婦への支援として生かしていくとするならば、特に夫婦ペアレンティングを良好なものとするために、二人の関係を良いものとするために、コミュニケーションをとること、その中で特に妻は自己開示することが大切である。また、夫婦ペアレンティングが保たれている場合は、すでに夫婦の間で互いの調整力が発揮されバランスをとっていることが明らかなことから、夫婦ペアレンティングについて語ってもらい、それを支えていると考えられることについて支持することにより、夫婦ペアレンティングにおける望ましい行動が強化されるのではないかと考える。

V. 結 論

育児期にある7組のカップル14人からの聞き取りを行った結果、夫婦ペアレンティングを良好に発揮するための夫婦関係は、妻の【夫との協力関係への満足感】と、夫の【妻との協力関係への満足感】により、夫婦の信頼関係が維持され、お互いへの感謝や夫婦関係への満足感による夫婦関係の自覚があった。そして、【自分の子育てを支えているものがある】こと、【子どもへのかかわりへの思い】【妻と助けあって子育てをするための努力】することによって、二人の子育てや今の子育てへの自信や支えられている実感により、夫婦の協力関係は保たれていた。また、＜妻と支えあうことはあたりまえ＞、＜妻の気持ちがわかるから応えたい＞、＜妻を支えながらうまくやっていきたい＞など、他の人に支えられている感覚や自らが感じる幸福感を大切にすることなどの夫婦ペアレンティングへの思いがあった。

謝 辞

本研究において、調査に協力くださいました協力施

設、対象者の皆様に感謝いたします。また、家庭訪問による聞き取りを共に行った母性看護学分野の2人の教員に心より感謝します。なお本研究は、2017～2020年文部科学省補助金 基盤研究C 家族の再構築を促す子育て支援プランの検討(課題番号17K12304)の一部になる。

利益相反

本論文内容に関連する利益相反事項はない。

文 献

- 荒川恵美子, 西村昭徳, 菊池春樹他(2017). 未就学の子どもの持つ夫婦の関係調整に関する我が国の研究動向. 東京成徳大学臨床心理学研究, 17, 188-197.
- Belesky, J. & Kelly, J. (1994)/安次嶺佳子訳(1995). The Transition to Parenthood 子供を持つと夫婦に何が起こるか. 草思社, 東京, 10-60, 133-167.
- 江崎グリコ株式会社. <日本・フィンランド「Coparenting コペアレンティング」比較妊娠期・育児期の夫婦間意識調査>妊娠期からの夫婦の密なコミュニケーションが、育児期の産後うつや育児ストレス軽減に子どもへの愛情や笑顔のあふれる過程につながる「Coparenting」社会を実現. <http://www.atpress.ne.jp/news/176629> (アクセス2020.1.16)
- Feinberg, M. (2003). The internal Structure and ecological context of coparenting. A framework for research and intervention. *Parenting: Science and Practice*, 12, 1-21.
- 伊藤裕子(2015). 夫婦関係における親密性の様相. 発達心理学研究, 26(4), 279-287.
- 伊藤裕子, 相良順子, 池田政子(2007). 夫婦のコミュニケーションが関係満足度に及ぼす影響—自己開示を中心に—. 文教学院人間学部研究紀要, 9(1), 1-15.
- 神谷哲司(2013). 育児期夫婦ペアデータによる家庭内役割タイプの検討 役割観の異動類型化と夫婦の関係性の視点から. 発達心理学研究, 24, 238-249.
- 加藤道代, 黒澤泰, 神谷哲司(2012). 母親のgatekeepingに関する研究動向と課題—夫婦ペアレンティングの理解のために. 東北大学院教育学研究科研究年報, 61(1), 09-126.
- 加藤道代, 黒澤泰, 神谷哲司(2014). 夫婦ペアレンティング調整尺度作成と子育て時期による変化の横断的検討. 心理学研究, 84(6), 566-575.
- 厚生労働省:平成28年度ひとり親世帯等調査結果報告, ひとり親になった時の親及び末子の年齢. <https://>

- www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11920000-Kodomokateikyoku/0000188152.pdf (アクセス2020.8.5)
- McHale, J.P. (1997). Overt and covert coparenting processes in the family. *Family process*, 36, 183-201, 15.
- McHale, J.P. & Rasmussen, J.L. (1998). Coparental and family group-level dynamics during infancy: Early family precursors of child and family functioning during pre-school. *Development and Psychopathology*, 10, 39-59.
- 永井暁子 (2005). 結婚生活の経過による妻の夫婦関係満足度の変化. 季刊家計経済研究, SPRING, 66, 76-81.
- 佐々木裕子, 高橋真理 (2007). 父親から見た第一子出生前後における夫婦関係の評価—家族イメージ法による分析を中心に—. 家族看護研究, 13(1), 53-59.
- 佐藤小織 (2012). 初産婦の夫婦関係の評価と育児満足感を構成する諸要因の関係に関する研究 育児初期の核家族に焦点をあてて. 日本助産学会誌, 26, 222-231.
- 清水嘉子 (2017). 乳幼児の母親の心身の状態に関する縦断研究. 日本助産学会誌, 31(2), 120-129.
- 清水嘉子 (2020a). 育児期にある夫婦ペアレンティング—互いの育児の批判をめぐって—. 日本助産学会誌, 34(1), 103-113.
- 清水嘉子 (2020b). 子育て期にある夫婦ペアレンティング調整パターンと関連要因. 母性衛生, 61(2), 340-351.
- 田中慶子 (2016). 家族形成期の夫婦関係の「質」とその後の評価. 季刊家計経済研究, AUTUMN, 112, 33-45.
- 宇都宮博. 結婚生活の長期化と夫の幸せ妻の幸せ, RADIANT, 1, 12-5, 12, <http://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/heart/story2.html> (アクセス2020.1.16)